

青森市で市民フォーラム「青森から考える気候変動」を開催、市民や行政、専門家が気候変動・温暖化対策について真剣に考え意見交わす



急激に進む気候変動や温暖化について地域における対策推進の機運を高めるきっかけを作るため、市民団体「青森の温暖化対策を考える会」（代表・中堀一弥）は8月31日、青森市堤町のリンクステーションホール青森で、市民フォーラム「青森から考える気候変動」を開催しました。フォーラムには、青森市の西秀記市長をはじめ、自治体やシンクタンク、大学などから多くの専門家、ゲストが登壇。講演やパネルディスカッション、交流会を通して、気候変動・温暖化の問題意識を共有したり、市民や専門家を交えた対策推進について意見を交わしました。

2023年は観測史上で世界的に最も暑い一年となりました。県内でもこの100年間で年平均気温が1.9度上昇しており、農林水産物や郷土の風物詩への影響も懸念されています。今年も連日厳しい暑さが続く中、約90人が参加し、気候変動や温暖化についての関心の高さが伺えました。

フォーラムの冒頭、滝沢求環境副大臣と青森県の宮下宗一郎知事のメッセージ動画が紹介され、青森市の西秀記市長が「（気候変動対策は）行政だけでできることではない。市民、団体の力を行政と合わせ、地球全体のものでもある問題に取り組んでいきたい」と挨拶しました。

講演では、地球環境戦略研究機関の藤野純一氏が、現在排出されるCO2によって、将来世代やインフラが脆弱な地域が特に影響を受ける不平等さを指摘。解決に向けた取り組みとして、再エネや省エネ推進、人材の育成などの必要性を訴えました。また、茨城県つくば市の五十嵐立青市長は、昨年行った「気候市民会議」について紹介。同市は市民の提言を市のロードマップに反映しており、「温暖化対策だけでなく民主主義にとっても価値のある取り組み。どんどん広がっていくといいと思う」と青森でも市民参加が一層広がるようエールを送りました。

続いて行われたパネルディスカッションでは、青森市の西市長とつくば市の五十嵐市長が「市民参加」をテーマに意見交換。効果的な気候変動・温暖化対策のためにも市民一人ひとりの力を行政に反映するための取り組みが重要という意見で一致しました。また、その後のセッション2では、西市長のほか、青森青年会議所の石田壮平前理事長、エフエム青森アナウンサーの中里玲奈さん、大学生の横岡美和さんが登壇し、それぞれの目線から気候変動について意見を述べました。

その後、今度は参加者が数人ごとのグループとなり、それぞれが感じる気候変動の課題や目指すべき目標を議論。「一人一人が大きなパワーになりそう」「自分の行動が相手を変える」など、グループで出た意見を赤や緑のリンゴ型の紙に書き、青森での気候変動に向けた市民の取り組みが実を結ぶよう、リンゴの木が書かれた台紙に張り付けました。

その後、参加者同士による意見交換のセッションが設けられ、様々な分野、職種の人たちが、パネリストを交えて、互いの取り組みや目標について積極的に意見を交換していました。

主催した青森の温暖化対策を考える会の中堀代表は「今回参加していただいた方々が真剣に考えて、多くの想いとアイデアをいただいた。多くの方が気候変動へ関心を持ち、連携して青森の脱炭素がすすむよう引き続き尽力していきたい」としています。

青森の温暖化対策を考える会では9月25日に今回のフォーラムで出たアイデア実現に向けた振り返りの会の開催を予定しており、会のホームページより申込を受け付けている。

<本件に関するお問い合わせ>

青森の温暖化対策を考える会 中堀 一弥

電話：090-5184-0874 メール：55891co2zero@gmail.com



会のホームページ